

福島第一原子力発電所の状況

平成 27年3月 20 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (3/20 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	15.5	3.7 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.01 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.3 m ³ /h	21.1	5.55 kPa g	A系： 0.10 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.08 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m ³ /h	18.4	0.22 kPa g	A系： 0.08 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.08 vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (3/20 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	15.0
2号機	循環冷却システム	運転中	28.9
3号機	循環冷却システム	運転中	23.5
4号機	循環冷却システム	運転中	10.2

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

【6号機】・燃料プール冷却浄化系プール入口弁(G41-F042B)からの漏えいの水平展開を目的に、類似弁である燃料プール冷却浄化系プール入口弁(G41-F042A)(以下、「当該弁」という)の分解点検を3/19から3/20(作業予定時間:24 時間)にかけて実施する。また、分解点検は同冷却系を停止して実施するが、当該弁は使用済燃料プールの通常水位以下に設置された弁であること、また点検のため隔離する弁がないことから、点検可能な位置までプール水位を低下させ作業を実施する。これにより、特定原子力施設に係る実施計画「特定原子炉施設の保安」(以下、「実施計画」という)第2編第55条の表55-1で定める「使用済燃料プールの水位」の運転上の制限「オーバーフロー水位付近にあること」を満足出来ない状態となることから、3/19 10:07、実施計画第2編第74条第1項(予防保全を目的とした保全作業を実施する場合)を適用し、計画的に運転上の制限外に移行し、点検作業を開始。当該点検作業に伴い、同冷却系を3/19 10:22に停止。なお、同冷却系停止時のプール水温度は18.0であった。

同日 16:40に当該弁の点検が終了し、点検結果に異常はなし。その後、使用済燃料プール水位を回復させ、使用済燃料プール水位が運転上の制限である「オーバーフロー水位付近」に達したことを確認した上で、同日 22:38にFPC系を起動し、運転状態および分解点検を実施した当該弁に漏えい等の異常がないことを確認。当該弁の点検作業およびFPC系の復旧が完了したことから、同日 23:05に実施計画第2編第74条第1項(予防保全を目的とした保全作業を実施する場合)の適用を解除。なお、SFP水温度は19.4であり、運転上の制限値65に対して余裕があり、SFP水温度の管理上問題はない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	3/2 10:25 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	3/19 10:38 ~ 移送実施中

4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (3/20 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)	増設多核種除去設備	高性能多核種除去設備
運転状況	運転中*1	運転中*1	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

- ・H27/3/19 9:40 頃 J2エリア北側において、淡水化処理装置受入タンクに設置した堰内に溜まった雨水をH5エリアに設置してある雨水用タンクへ移送していた耐圧ホースから水が漏れいしていることを当社社員が発見。このため、移送ポンプを停止し、9:50頃に漏えいがほぼ停止したことを確認(9:55完全停止を確認)。その後の調査で、本来C東エリアの堰内雨水をH5エリアに移送する予定であったところ、淡水化処理装置受入タンク等の堰内雨水を移送するポンプのスイッチを誤って操作したことがわかった。移送したラインは、現在使用していないラインであり、移送ホースに割れ(移送ホースの軸方向に長さ約4cm)が発生していたことで、漏えいに至ったものと判断。漏えいした水の量は、移送量が約10m³であったこと、および当該の割れが発生していた箇所から漏えいしたことを考慮すると、最大でも約10m³と推定。漏えい範囲は、3/19の降雨による影響および漏えいした水が周辺の地面に浸透していることから不明であるが、付近には土側溝があり、その土側溝は海へ繋がる側溝に繋がっていないことから海への流出は無いと判断。また、漏えいした水は、10:31 から 11:05 にかけてパワープロベスター(バキューム車)を使用し回収を終了しており、回収量は約9m³であった。

漏えい水の分析結果は以下の通り。(他の堰内雨水と同等の値であることを確認)

< 漏えい水の分析結果 >

Cs - 134: 検出限界値未満(検出限界値: 1.0×10^1 Bq / L)

Cs - 137: 検出限界値未満(検出限界値: 1.7×10^1 Bq / L)

Sr - 90 : 7 Bq / L

< 5. その他 >

- ・H27/2/5 ~ 3号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。
- ・H27/2/14 ~ 4号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。
- ・H27/2/24 ~ 2号機海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を開始。
- ・3/18 10:04 2号機海水配管トレンチの立坑Aおよび、立坑Dの滞留水については、グラウト充填工事に伴い、滞留水水位の上昇が予測されることから、2号機タービン建屋に移送を開始。
- ・12:06 同移送を停止。移送中および移送後、漏えい等の異常がないことを確認。
- ・H26/6/2 ~ 陸側遮水壁工事を開始。
- ・H27/3/16 ~ 1号機原子炉建屋カバー解体工事に向けて準備工事を開始。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。

【H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

< H4エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< H6エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

< 地下貯水槽サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。